

せいけん  
詩集

第百四十八篇

作：近藤せいけん

# 「故郷を 想う 1」

遠く 離れて

懐かしい 父母の住む

故郷を想う

思いで山 思いで川

いつも昔のまま 迎えてくれる

心優しい 町人

誰れにでも 自分の故郷がある

故郷に 故郷に 帰ろう

神社から響く 夏祭りの太鼓

あそこには 昔がある

あそこには 友がいる

回る影絵のように 心に浮かぶ

幼い日々の思いで 懐かしさ今も蘇る

愛しきあの頃 楽しかったあの時代

帰りたい 行きたい あの頃に

秋が来て 田んぼの稲穂

黄金に染まる頃

畦道に赤とんぼ 追いかけて

夕焼けの中 どこまでも走った

幼い日々の思い出 ほろ苦さ

今も蘇る

故郷はいつまでも そこにある

思い出の宝箱の眠る地へ

帰ろう 帰ろう 故郷に

